

第12期 第3回国立市ごみ問題審議会 議事録

日時 令和2年(2020年)10月26日(月) 午後2時00分～午後4時00分
場所 国立市役所2階 委員会室
出席者 山谷会長、山崎副会長、楠田委員、隈井委員、高麗委員、田中委員、十松委員、速水委員、山岸委員(委員は50音順)
事務局 黒澤生活環境部長、中村ごみ減量課長、豊島清掃係長、新井清掃係主任、岡田清掃係主事

【議事要旨】

1. 国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく進捗状況の評価について

資料に基づき、国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく進捗状況(2019(令和元)年度実績)の行政による評価の(1)家庭系ごみの減量化・資源化の5)再生利用について事務局から説明した。

【山谷会長】①分別の徹底について、ご意見をお願いします。

【山岸委員】ミニ出前講座に参加したのですが、市の職員が来て質問ができることはなかなかないので、とてもよかったですと思います。ぜひ続けていただきたいと思います。

【十松委員】「各種分別の徹底の促進」というのは、市民がカレンダーを見ながら分別の徹底を努力するということだとは思いますが、その前に、「紙」のリサイクルマークがついていてもリサイクルできない紙があるように、分別が分かりにくいものがたくさんあると思うので、製造者に分別しやすい容器を作るように促進する仕組みはないのでしょうか。

【山谷会長】全国都市清掃会議のメンバーとして、国やメーカーに拡大生産者責任を要望していますよね。

【事務局】そうですね。

【山谷会長】実際にリサイクルをしている高麗委員はいかがでしょうか。

【高麗委員】リサイクルできない紙の資料をメーカーからもらっていて、出前講座に同行して説明することもできると思いますので、行政と連携を取ってやっていければと思います。

【山崎副会長】ごみ出しお知らせメールを登録しているのですが、分別のヒントが入っていたりして、個人的にはすごく評価しています。この登録者数も評価の一つにならないでしょうか。

また、LINEでの配信なども考えてもよいかもしれません。

【事務局】登録者数はたしか3,500人くらいだったと思います。

【隈井委員】結局、製造者側と捨てる側で分別が一致していないことが問題ですよね。市区町村ごとに分別も違います。例えば、商品のバーコードと住んでいる市区町村を入れると、分別の答えが出てくるようなシステムがあればよいと思います。

【山谷会長】雑紙回収袋の配布については、小学4年生の環境教育のときに家に持って帰ってもらい、小学生から家庭に話をしてもらっているという自治体の話も聞きます。LINEも含め、新しいチャンネルを研究していただきたいというまとめでいかがでしょうか。

【山谷会長】②集団回収の充実について、ご意見をお願いします。

新聞や雑誌の購読数が減っているの、どこの自治体も回収量は減ってきています。そして今年度はコロナ禍で、子供会やPTAでやっているところでは中止しているという話も聞いています。

【十松委員】国立市では大規模な集合住宅が集団回収をしているとは聞くのですが、PTAや子供会でやっているところはあるのでしょうか。

【事務局】たしか10団体くらいあります。

【隈井委員】資源物の買い取り事業の行政側のコストはどうなのでしょう。

【事務局】民間の事業者と一緒にしてもらい、その事業者に買ってもらっているの、市はお金には絡んでいません。

【隈井委員】そうすると、古紙は価格が変動するのでしょうか。

【事務局】そうですね。今は価格が下がっていて、回収はしているのですが、お金は渡していません。

【田中委員】私が住んでいるところでも集団回収をしているのですが、回収量の増加につながっているのでしょうか。

【山谷会長】他の自治体で買い取りをやっているところは知らないです。排出するルートが複数あるということは、市民にとってはリサイクルに協力しやすいということなので、ぜひこの事業は継続していただきたいというところでまとめさせていただいてよろしいでしょうか。

【山谷会長】③廃食用油回収の推進について、ご意見をお願いします。

他の自治体では、業者があまり乗り気ではなくなっていると聞いています。回収量が減っているのは、市民のライフスタイルが変わり、中食化、外食化が進んでいるからでしょうか。

【十松委員】回収した廃油はインク等として再生されているとのことですが、それを市役所で使ったりしているのでしょうか。

【事務局】そこまではしていません。

【隈井委員】ANAが廃油から作られた航空燃料で運航していくというニュースがあったのですが、頑張っ続けていけば、別の用途が出てくるかもしれません。

【山谷会長】引き続き、業者さんと連携しながら実施していただきたいということでまとめとさせていただきます。

資料に基づき、国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく進捗状況（2019（令和元）年度実績）の行政による評価の（2）事業系ごみの減量化・資源化について事務局から説明した。

【山谷会長】①事業系ごみの手数料の適正化について、ご意見をお願いします。

【十松委員】令和元年度の実績として手数料を42円としたと表記してよいのでしょうか。

【事務局】42円にすると決めたのは令和元年度中なのですが、表現は整理します。

【山谷会長】小規模な事業者には有料ごみ処理袋があり、他市と比べるとかなりきめ細かく区分が設けられているところが国立市の特徴かと思います。

家庭ごみの袋と比べるとかなり高いのですが、多摩地域はこういうかたちで小規模な事業者も排出事業者としてきちんと責任を果たして、負担もして排出するというかたちになっています。

埼玉県や千葉県、神奈川県ではほとんどこういう制度はなく、自分でクリーンセンターに持っていくか、収集運搬許可業者と契約するかなのですが、実際にはどちらも難しく、家庭ごみと出してしまうということになってしまいます。

23区では、1日の排出量50キログラムまでの事業者とかがシールを貼って出すのですが、場所によっては5割以上の事業者が貼っていないという状況もあるようです。大きな袋で出して、小さな袋のシールを貼ることも多いようです。

ここは事業系ごみの手数料値上げによる減量効果を期待するというまとめでいかがでしょうか。

【山谷会長】②啓発・指導の推進について、ご意見をお願いします。

【楠田委員】搬入物の検査の回数が4回ということで、変わっていないのですが、山谷先生からいただいた本を見ると、延べ日数で書かれていて、304日やったというところもあるので、指標は回数でよいのでしょうか。また、行政による評価もBになるのでしょうか。

【山谷会長】回数が多いところは、自分の市で清掃工場を持っている大きな市になります。国立市の場合は、多摩川衛生組合で運用しているので、主として組合がやり、市も責任があるから、検査をしているということで、立派だと思います。

【隈井委員】前の年も、その前の年も聞いたかもしれませんが、個別の指導の徹底ができない理由はどこにあるのでしょうか。

【事務局】特に理由はなく、ただ単にやっていませんでした。今年度はちょっとやり始めています。

【隈井委員】指導する必要がないのが一番いい状態ですが、行政による評価を「指導を行う必要がある」と書いてしまうと、指導の必要があるけどできていないと読めてしまうかもしれないので、実態に合わせて書いたほうがよいかと思います。

【事務局】そうですね。許可業者が回収している事業者のごみをチェックする機会が搬入物検査のときくらいしかなかったので、それよりはもうちょっと踏み込んでやっていく必要があると思います。

【山谷会長】多摩地域はどこの自治体もそうですが、直営の職員がいたときは、指導のプロみたいな職員を養成して、かなり指導に力を入れることができたと思うのですが、今は事務系の職員ばかりになって、なかなか手が回りにくくなっているのではないかと思います。

【楠田委員】他の市町村で同じようなテーマでヒアリングしたのですが、小規模な事業者はやはり何回か行政のほうでチェックをしないと、効果が出てこないと聞いています。

搬入物検査も誰に対して、何に対してやるのか考えたほうがよいかと思います。

【事務局】小規模の事業者については、回収する前のごみを確認して、出し方が間違っているものは指導をしています。

【山谷会長】収集運搬許可業者の指導も必要になってきますね。搬入手数料の安い市と高い市と両方のごみを一緒に集めたら、安い市のクリーンセンターに持っていくということもあります。事業系ごみの指導は引き続き注力していただきたいというというまとめでいかがでしょうか。

【山谷会長】③減量化・資源化の促進について、ご意見をお願いします。

【十松委員】給食センターは建て替えが予定されているかと思いますが、新しい給食センターに生ごみの処理ができる施設を作る計画とかはあるのでしょうか。

【事務局】まだわかりません。

【山谷会長】搬入手数料を引き上げたことで、食品リサイクルルートへの食品ごみの搬入を促進していければよいと思います。

ただし、自治体の搬入手数料がかなり安いので、食品リサイクル事業が採算に乗らず、リサイクル施設が不足しているようで、施設の整備を待たなければいけない状況のようです。そのためには全国的に搬入手数料を原価相当のものに引き上げることが必要です。

【事務局】手数料を変えて、事業者から食品リサイクルを新しく始めたいという相談が何件かありました。

【山谷会長】そのような流れをもっと大きくしていただきたいというまとめでいかがでしょうか。

【山谷会長】④市管理施設での減量施策の強化について、ご意見をお願いします。

庁内ごみ減量対策組織の設置についてですが、ごみ減量課が旗振り役になって、庁内の各部課あるいは施設と連携しつつ、セクションごとの減量の取組を見える化することが必要ですよ。

【山崎副会長】ごみの持ち帰りやマイコップ等の持参に関する呼びかけは、どのように行っているのでしょうか。職員以外に施設を利用する市民も巻き込んだほうがよいかと思います。

【事務局】職員のグループウェアで呼びかけているだけで、市民には呼びかけていません。

【山谷会長】弁当ガラとかは、家に持ち帰ってもらうのが当たり前ですよ。

【隈井委員】デジタル化することによって、紙ごみの量は減っていくのかと思いますが、どれくらい減るのか試算しておくことを検討してもよいかと思います。

【事務局】抜本的に減らすためには、そこしかないと思います。

【山谷会長】大学や中央省庁では進んでいるのですが、地方自治体ではどういうわけか進みませんね。経産省の会議に出ていくと、事前にPDFで資料が送られてきて、会議室にはタブレットが置いてあるだけです。

【山崎副会長】小中学校も今はかなり紙ベースですが、お便りやプリントのデジタル化が今後進むと言われているので、将来的にごみ量の数字もがどんどん変わっていくのでしょうか。

【楠田委員】市役所も減収しているのに、デジタル化と世の中では言っていますが、なかなか難しいのかなという感じはします。

【山谷会長】審議会の評価としては、庁内ごみ減量対策組織を早急に立ち上げていただきたいということと、会議の電子化についても、将来の課題として検討していただきたいということで、お願いします。

資料に基づき、国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく進捗状況（2019（令和元）年度実績）の行政による評価の（3）収集・運搬について事務局から説明した。

【山谷会長】①効率的な収集体制の推進について、ご意見をお願いします。

有料化と同時に、収集品目、収集頻度を見直しましたが、収集頻度を落とした分は、店頭回収等を利用してほしいという趣旨ですよ。

【山崎副会長】施策の維持という方向性は守れていますし、新しくEPRの推進も行えているので、行政による評価はAでもよいかと思いました。

【山岸委員】収集の頻度が減ったことで、ごみを分別してから家に少し置いておいて、指定の日に出すということをしなければならなくなったので、ごみについての意識が高まった気がしました。

【山谷会長】もう一つの重要な狙いとしては、リデュースの推進があると思うのですが、出す頻度が絞られて、保管負担が増えることで、リデュース行動を誘発できるかどうかということとはなかなかつかみかねるところです。例えば、今まで缶やペットボトルに入っていたお茶を買っていたのが、急須を利用するように生活様式が変わったということはあったでしょうか。

【山岸委員】プラごみはすぐたまるので、お弁当とかを買うときに、これがごみになると、ゴミ袋が一杯になるなということを感じるようになりました。

【隈井委員】レジ袋の有料化が始まったことで、マイバッグを持っていくときに、そこにお店で捨てる物を詰めて行くということも増えているのではないのでしょうか。

店頭回収の量は把握しているのでしょうか。

【事務局】具体的な数値はお店も把握していないようなのですが、感覚としては増えたというお店が多いです。

【山谷会長】ここの評価は山崎副会長に要約していただきましょう。

【山崎副会長】回収頻度の見直しを実施し、店頭回収の推進、エコショップ制度も軌道に乗りつつあるということで、今後も効率的な収集体制の推進をお願いしたいというところでしょうか。

【山谷会長】そうしましょう。

【山谷会長】②収集運搬による環境負荷の低減について、ご意見をお願いします。

【山崎副会長】22ページを見ると、ごみ集積所の数が1年間で1,000か所以上も増えているにも関わらず、走行距離や燃料の使用量がそんなに増えてないということは、例えば作業員に走ってもらうなど、工夫があったのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

【事務局】収集員が日々工夫して頑張った結果だと思います。

【山崎副会長】車というのは、止まって走ってを繰り返すほど、燃費が悪くなりますが、そのようなことが増えたにも関わらず、頑張っているということで、個人的には非常に評価したいと思います。

【山谷会長】ここは今の副会長のまとめでいきたいと思います。

【山谷会長】③安全かつ安定的な収集体制の確保について、ご意見をお願いします。

【十松委員】ごみ集積所の数が毎年1,000か所ずつぐらい増えていて、23ページのごみ出し困難者の数も少しずつ増えている中で、事故が発生しているというところは、収集員の負担が増えているのではないのでしょうか。

【楠田委員】事故の発生数は増えているのでしょうか。

【事務局】手元に数字がないのですが、昨年よりは増えています。

【楠田委員】ヒューマンエラーに起因しているのか、仕事の仕方が困難になったからなのか、ごみに危険物が増えてきたからなのか、要因をよく分析しないといけないと思います。

【隈井委員】去年は3件だったのですが、今年は運搬車で物を壊したという事故がすごく増えている点が気になります。

事故の要因を分析していくと、心理的要因につながるもので、どうしてそうなったかというところまで、一度業者に聞いておいたほうがよいかと思います。

【事務局】事故があった場合は、その状況とか心理的な面を報告書にまとめて上げてもらっているのですが、やはり急いで作業する中で、注意が散漫だったという報告が多いです。集積所の件数とかも当然複合要因だとは思いますが、基本的には安全第一に作業してもらおうということを繰り返しお願いしているところです。

【山谷会長】ここは事故原因の究明、調査をして、事故の発生防止を徹底してもらいたいというまとめでいかがでしょうか。

【山谷会長】④戸建住宅における収集方式の柔軟な対応について、ご意見をお願いします。

【隈井委員】国立市は人口が増えていることもあるかと思いますが、集積所はどのような要因で増えているのでしょうか。

【事務局】新しく家が建ったので収集してほしいという場合と、既存の集積所を解体して、戸別収集に変更してほしいという場合があります。1つ目の場合はほぼ100%戸別収集になっているのが現状で、2つ目の場合もかなり頻繁に相談があります。

【山谷会長】周りの市は、みんな戸別収集に切り替わっていますので、戸別への要望は結構あるのではないのでしょうか。

【隈井委員】収集業者は無理して対応してくれているのではないかと思います。集積所が増えたことで、少しは収集業者のほうにお金が行くようにはなっているのでしょうか。

【事務局】数年前と比べて、狭い路地を軽トラックで戸別収集してもらうために、その分の車両の維持費は支払うようにしていますが、契約上の台数は増やせていません。

【隈井委員】例えば谷保の農地に5軒か6軒の住宅ができたときに、戸別収集にする前にまとめて集積所をつくってくださいという指導はできないのでしょうか。道路が行き止まりだったりすると、人が走り回って集めているのではないのでしょうか。

【事務局】してはいるのですが、条例上の義務とかはないので、戸別収集を希望された場合には受けています。

【十松委員】地域ごとに増え方の違いはあるのでしょうか。

【事務局】手元に資料がないのですが、やはり南部は大規模な分譲ができるケースが多く、北部はもとと大きな家が3軒とかになるケースが多いです。

【山谷会長】先ほどのことに戻りますが、戸別化を進めていって収集する箇所が増えたことと、事故の増加は関係があるのでしょうか。

【事務局】件数が増えたので収集員に負担が増えて、それが先ほどの悪い結果につながっているということもあるかもしれませんが、現状は2時とか3時ぐらいに収集は終わっているので、一応余裕はあるのではないかと思います。

【山谷会長】ある市で有料化を実施するときに、すぐ近くの市の車に分乗して、視察させてもらったことがあったのですが、収集業者はとにかく急いでいて、これは危ないと感じました。

【山崎副会長】市内で作業中のごみ収集車の横を通過しようとしたときに、運転手が思いっきりドアを開けて出てきて、本当に危なかったことがありました。

件数が増えても負担がゼロということは絶対はないかと思うので、将来的にはスタッフの増強とかも必要なのではないかと思っています。

【隈井委員】柔軟な対応をしてほしいけれども、集積所数の増加による副作用についても考慮しながら進めてほしいということですね。

【山谷会長】そうですね。山崎副会長、隈井委員にまとめていただいたご意見を審議会の評価としてはいかがでしょう。

【山谷会長】⑤ごみ出し困難者への支援の検討について、ご意見をお願いします。

【楠田委員】特別配慮の数の指標が集積所の数となっているのですが、戸数とか人数にするともっと増えているのでしょうか。

【事務局】この表の「集積所数」は誤りで、正しくは「件数」です。

【隈井委員】予測は立てられないかもしれませんが、将来的にどれくらいまで増えていきそうなのでしょうか。

【事務局】今のサービスの内容だと、自分である程度のことにはできるが、細かいことができない方が対象になるのですが、今後、やはり高齢者がどんどん増えていくと思うので、サービスの内容も含めて、考えていかなければならないと思います。

【山谷会長】審議会の評価としては、きめ細かな対応を引き続き行ってほしいというところでしょうか。この件数は、これから間違いなくうなぎ登りに増えていきますよね。

2. その他

(1) 次回以降の日程について

第4回は予定どおり令和2年11月30日（月）の14時から行うこととした。

— 了 —